



# 平成武師道

## (人間活動学)

### 『勝負』

人生を振り返ると、何度か勝ち負けを決する事があった。  
勝つ事もあれば負ける事もあった。  
勝ち続けると、勝つ事のプレッシャーを感じる。  
勝たなければいけないという自分の心の声が聞こえてくる。  
しかし、それがいつの間にか聞こえてこなくなる時がある。  
それが老いるということである。  
無理して「勝ち」にこだわらず、肩の力を抜き自然の流れに従うようになってくる。  
勝たなくても負けなければ良い事を知るのである。  
それでは「負け」とは何であろう。  
物理的に言えば、思っていた形にならない。  
結果が出ない事。  
手に入れる事ができない。  
若い頃は、それでも何とか手に入れてやろうと、あの手この手を使って必死になれた。  
しかし、老いてくるとその思い行動が鈍くなっていくのである。  
と言うよりも、無理ができなくなっていくのだ。  
それでも生きている以上は、何とかしていかないといけない。  
「生きる」ということは簡単ではなく、常に闘いの連続である。  
命のやり取りの闘いでは、負ければ「死」を意味する。  
しかし、これは勝負の究極の結果であり、もっと日常的に見なければならぬ。  
日常的な「勝負」。  
それは、他人の判断の勝ち負けよりも、自分の心がそれで良いのか駄目なのかを決める事だと思う。  
歳を重ねると、いろいろな事を経験し、学ぶ(そうでない人も多いですが)。  
すると、勝ち負けよりも結果が見えてくるのである。  
それをしっかりと受け入れ、あとは少しどう修正するかだけの話しになるのである。  
経験が多い人は口を揃えてこう言う。  
「生きているだけでラッキー！」  
そう、「生きる」という事が「勝ち」につながるっていくのだ。

### 追伸

私的には勝ったと思えば「勝ち」。  
負けたと思えば「負け」。  
それだけである。

